

甘くておいしい葡萄

2024年、今年は辰年です。竜は伝説上の生き物ですが、「竜門と呼ばれる滝を登り切った鯉は竜になる」という中国の有名な故事があります。「竜門の滝」の落差は30メートル以上。流れは、放たれた矢よりも速い。この滝を登れたら竜になれるということで、数多くの魚が集まり登ろうとしますが、百に一つ、千に一つ、万に一つ登る魚はいない。その上、滝を登り切れず、岸边にはじき飛ばされた魚は、漁師や飢えた鳥たちから命を狙われる。



唐の詩人・白居易は、この「竜門の滝」の滝登りに何度も挑み、岩に打ち付けられて額に傷を負った魚（「点額魚」）の気持ちを詩にしました。「聞けば、竜になったらなつたで、天に昇って雨を降らせる苦しみがあるそうだ。そんな苦しみをやるよりは、永く魚のままに自由に泳ぎまわっているほうが、あるいはかえって幸せなのかもしれない」。

大きな壁に挑み、背負わなくてもよい苦しみを背負うより、今いる場所で自由に生きているほうが幸せなのではないか——。物事を成し遂げようとする岐路にさしかかった時、誰の胸にも湧いてくる進むか退くかの微妙な心です。

その話を聞き、イソップ物語にある「キツネと葡萄」の話を思い出しました。

お腹をすかせたキツネが、たわわに実ったおいしそう葡萄を見つけて食べようとします。しかし、葡萄は全て高い所にあり、何回ジャンプをしても届きません。あきらめたキツネは、「どうせこの葡萄は、酸っぱくてまずいに違いない。誰か食べてやるものか」と、悔しさのあまり捨て台詞を吐いて立ち去っていきます。

キツネは、言い訳をする前に、木に登るなり、取りやすい葡萄を探すなり、方法を変えて挑戦することもできたかもしれません。しかし、乗り越え難い壁にぶつかった時、都合のいい言い訳をして自身を欺いてしまうことはありがちです。壁は外にあるのではなく、自身の心の中にあるのかもしれません。

新年にあたり、多くの子どもたちが、頑張りたいことやチャレンジしたいことなど、目標を決めてスタートします。新しい気持ちで勉強や運動に取り組むことは「新しい自分」へと成長するチャンスです。

子どもたちには、是非、手にしたいと願う「葡萄」を全力でつかみとりにってほしいと思います。努力し、苦勞して得た「葡萄」なら、きっと「甘くておいしい葡萄」のはずです。

子どもたちが「葡萄」に手が届く方法を見付けられるように、私たち教職員は応援団として、ご家族や地域の方々と共に、子どもたちに寄り添い、励まし、支援をまいります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



学校関係者評価(保護者アンケート) ご協力ありがとうございました

アンケートへのご協力、ありがとうございました。現在、集計作業を終え、分析・検討を進めております。なお、結果につきましては、後日、市内全小学校の平均値とあわせてご報告させていただきます。

また、記述については、学習指導や生活指導に関すること、施設・設備、PTA活動等について貴重なご意見や要望をいただきました。特に、学習参観や保護者会については多くのご意見が寄せられました。来年度の教育活動の検討資料の一つとさせていただきます。(ご意見の一部を要旨をまとめ下記に紹介します)



ご意見の中には、教職員への感謝・励ましも多数含まれていました。皆様の温かい心遣いは、教職員のやる気(モチベーション)を高めます。ありがとうございました。

<学習参観・保護者会等>

- 学習参観を土曜日に行ってほしい。平日だと仕事でなかなか参観に行けないため。
- 可能であれば1時間だけの学習参観ではなく、オープンスクールの形にさせていただき、好きな時間に見に行けるようにしていただければ助かります。保護者も仕事の都合がつけやすくなりますし、普段の様子に近いものを見られるのではないかと思います。
- 町探検の発表をみんながんばってやっていて素晴らしいなと思いました。同時に、普段の授業はどんな感じでやっているのか見てみたいと思いました。
- 学習公開と保護者会を同じ日にしてほしい。予定の調整がしやすく助かります。
- 校内音楽会を土曜日に行ってほしい。

→コロナ禍以前に行われていたような学習参観の土曜日実施や、オープンスクール形式での参観を希望するご意見が多く寄せられました。音楽会の実施方法も含め検討させていただきます。



<学習>

○学年の先生方がその学年の子どもたち全員をより把握するために、教科を分担して、授業をするということもあって良いのかと思います。クラス担任以外の先生が授業をすることで、子どもたちも少し緊張したり、身が引き締まったり。先生によるクラスの偏りも緩和されると思います。同じカリキュラムを進めているなら可能だと思うので、都合のつく時期だけでもお願いします。

→高学年での実施になろうかとは思いますが、教科担任制のメリットとデメリットを勘案し、検討させていただきます。

<クラス替え>

○今後もクラス替えを毎年行ってほしい。色々な先生や友人と関わる事は学びが多いと思います。

→令和6年度も全学年でクラス替えを行います。令和7年度以降につきましては、次年度末に改めて検討させていただきます。

